

学 位 論 文 審 査 の 要 旨

学位申請者	橋本 嘉代 【ジェンダー学際研究専攻 平成21年度生】	要 旨
論 文 題 目	現代日本における望ましい父親像の構築：雑誌・ソーシャルメディアの＜父＞言説の形成と受容	<p>育メンという言葉に代表されるように、2000 年代後半から父親の子育て役割に大きな期待が寄せられているが、本研究では「望ましい父親像」に関する言説が生み出され、表象され、消費される一連の過程を雑誌とソーシャルメディアの分析を通して解明することを主な目的としている。本研究で援用した理論枠組は生産、表象、消費、アイデンティティ、統制の概念を含む「文化の回路」であり、各概念について、過去 30 年間の雑誌記事タイトル、2005 年～2016 年に創刊された父親向け雑誌の表紙、紙面、キャッチコピー、発行部数、読者層に関するデータ及び編集長のコメント、2011 年～2016 年のソーシャルメディア普及期に掲載された有名人・芸能人ブログの言説、読者数などの反響をテキスト化しコーディングしたデータを使用して分析した。</p> <p>雑誌メディアの分析結果としては、1990 年代前半までには父親が当事者として子育てを語る機会は少なかったが、それ以降は実感に基づく父親の感想や日常的な出来事に関する記事が増加した。2005 年以降の父親を対象とする新雑誌の言説分析では家庭中心志向の新しい父親像が家族の絆を重視、子育てを楽しむ様子が描かれており、この父親像に対する読者の受容過程が確認された。有名人・芸能人ブログ分析では、妊娠・出産報告と男性の子育てに関する言説が多く見られ、ポジティブな父親像が生産されてきていることを明らかにした。</p> <p>本審査委員会は平成 29 年 12 月 4 日、平成 30 年 1 月 19 日、2 月 21 日に開催された。これらの審査委員会では、時宜を得たテーマに関して膨大なメディア関連のデータを収集し分析したことは評価されたが、理論的枠組の再構築、データ分析手法、引用文献の整理などに関する指摘があり修正が求められた。申請者は審査委員の全てのコメントに沿って論文の構成を見直し、大幅な書き直しを行なったが、その結果、かなりの改善が見られた。審査委員会は、先行研究が比較的少ない研究課題に対して、膨大な資料を分析して、父親像の構築に関する歴史的変遷とプロセスを解明したことなどを評価した。</p> <p>平成 30 年 3 月 5 日に開催された公開審査会における発表はよく整理され、質疑応答も的確に行なった。審査委員会は本論文が本学大学院人間文化創成科学研究科の博士の学位の水準に達していることを認め、合格とし、全員一致で博士（社会科学）Ph.D. in Sociology の学位を授与することを決定した。</p>
審 査 委 員	(主査) 教授 石井クンツ 昌子	
	教授 小玉 亮子	
	教授 平岡 公一	
	教授 藤崎 宏子	
	准教授 斎藤 悦子	
インターネット 公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（ 可 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 否 ）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> <p>ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p>イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p>オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> </div> <p>※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	